

# 婦人と子ども

大正五年一月一日  
第十六卷 第一號

## 學齡前教育の研究 (一)

此の教育研究最盛の時代に於て、獨り學齡前教育の研究の擧がらざるは、奇とすべく又嘆すべきことである。たゞに我國に於てのみならず、世界を通じて此の缺點がある。特に學齡前教育としての包括的研究のみでなく、家庭教育としても、幼稚園教育としても、眞面目なる學界の研究問題として、殆んど顧みられざるの觀がある。特に其の専門の講座あるを知らず、組織的著述あるを見ず、學術的討究あるを聞かず、只漠然として貴重なことなりといふの外、此の問題に其の研究的努力を傾倒するものなし。特に此の方面に興味を有するものあるも、學術的に多き注意を拂はれず。かくて、此の貴重なる、人生教育の基礎的問題は、い

つものながらに、昔ながらに、常識的、獨斷的、斷片的、思ひつきの取扱はるのみ。甚だ異とすべきことである。

## 學齡前教育の研究 (二)

學齡前教育は學齡後の學校教育と其の本質に於いて大に趣きを異にする。故に、之れを學校教育の見解から見れば、殆んど一種特別なるもの、如く、従つて普通の科學的教育研究の範圍外のもの如く思惟せられる。しかし、之れは見方が違ふからである。教育は學齡前教育として、自ら一個の性質をもち、組織をもち、それ自らの事實と法則とに於て、確に學的研究と組織とに價するものである。家庭教育然り、幼稚園教育然り。現に最近教育學の諸新説なるものは、實によく此の事を

立證して居るものである。曰く作業主義、曰く美的教育主義、曰く人格的教育主義、皆之れ學齡教育に於て、根元的に、全範圍的に、最も明かに存する處の教育原理ではないか。否寧ろ、學齡前教育の深き省察を以て、始めて之等の教育原理に徹底的理解を與へ得るものが少くない。宜なるかな近來、教育學上の諸新説に促されて、事新らしくもフレーベルの研究の唱導せらるゝや。フレーベルは實に學齡前教育に於て其教育説を實現したものである。

### 學齡前教育の研究 (三)

教育の最も自然的根元を見んとするものは學齡前教育の研究に來れ。教育の最も全人格的渾一的作用を見んとするものは學齡前教育の研究に來れ。教育の結果の收獲にのみ忙しきもの、教育の機能の分化的整制をのみ意とするもの、教育の事業としての規模の大を誇らんとするもの、其の要求は恐らく學齡前教育に於て満足せられないかも知れ

ない。しかし、教育に萌え、教育に樂しみ、教育に酔ひ得るものは、其の學齡前たるを以て、規模の小なるを以て、萬事手ごたへの少なきを以て、此の教育の研究を輕んずるものはあるまい。

### 學齡前教育の研究 (四)

人生の教育の各方面を比較して、いづれを貴しとし、孰れを卑しとすることはない。教育の事業は分れて、種々の學校過程を區別せざるを得ないけれども、教育はもとこれ一連一帯の繼續的事實であつて、始めあり、中あり、終りあり、而して始めて一つとして完きものである。此の理より見れば、學齡前教育の研究に缺くる教育研究は教育研究として完きものでない。教育學を教育の術とすれば知らず、教育といふ人生の大事業の知識なりとすれば、それは必ず組織的なる學齡前教育の研究から始められなければならない。之れ必ずしも學齡教育のためのみならず、教育そのものゝ爲である。